



大砂土中だより

は つ ら つ

澆 刺 と



さいたま市立大砂土中学校

048-684-8004

<http://osato-j.saitama-city.ed.jp>

No.10 令和8年2月2日号

きさらぎ
如月に思う

校長 倉林 弥生

新年を迎えたのはついこの前のことのようにですが、もう2月、暦の上では立春です。それでもまだ寒い日が続いていますので、健康管理には十分に気を付けて、元気にこの寒さを乗り切りましょう。

先月の下旬を中心に私立高校の入試が始まり、大砂土中でも多くの3年生が受験をしました。初めての経験でさぞ緊張したこととは思いますが、終了後、明るい表情の3年生の姿を多く見ることができたので少しほっとしました。そして今月の26、27日は、公立高校の受検日を迎えます。いよいよ最後の試練の時、ラストスパートとなります。今まで努力を重ねてきた自分を信じて全ての力を発揮してください。すでに進路が決定した人は、最後まで頑張る仲間をぜひ応援してください。

さて、2月の別名は「如月（きさらぎ）」と言い、中国最古の辞書である『爾雅（じが）』に「二月を如（じょ）となす」と記されていることが由来です。中国で2月を表す言葉として使われていた「如月（にょげつ）」という表記に日本独自の呼び方の「きさらぎ」を当てはめたとされています。その語源には、いくつかの説があるようですが、そのうちの2つを紹介します。

① 衣更着（きさらぎ）説【有力説】

「2月は、一番寒さが厳しいと言われ、**衣**（きぬ）を**更**（さら）に重ねて**着**（き）る」という説

② 生更ぎ（きさらぎ）説

「2月は、春が近づき、草木が**更**（さら）に**生**（は）え出し、芽吹く準備をしている」という説

こうして考えると、私たちの日常に近い気がします。①の説では、寒さから身を守るために一枚一枚重ねて着てきた「衣」を、「積んできた経験」や「乗り越えてきた壁」に置き換えられます。

そして、次のステップへ進むために必要な「自分を守る心の衣」となります。

②の説では、草木が春に芽吹き、大きな花を咲かせるために、じっと待っているように、私たちにとっても今は、春のスタートに向けてエネルギーをじっくり蓄える「心の準備期間」であると思います。暖かい春を迎えるには、厳しい寒さは必要なのだと改めて感じます。

今年度もあと約2カ月となりました。自分自身を成長させる時間もわずかとなってきました。来年度、前向きで明るいスタートが迎えられるように、残りの日々一日一日を丁寧に積み重ねていくことが如月（きさらぎ）の今日、大切なのかもしれません。



美術部の生徒による作品です。

職員室前、階段踊り場に掲示しています。

改めて「午年」。勢よく行きましょう！